



 地域の未来・志援センター

2023年度事業計画(案)



2023年7月8日

目次

目指す社会の姿	P.4
1. <u>2023年度（第20期）事業期間と基本方針</u>	P.5
2. <u>2023年度事業計画（案）</u>	P.6
①広域ネットワーク～多世代交流＆人材育成～事業（未来創造プログラム）	P.7
❖年間スケジュール（案）	P.8
❖「未来創造プログラム」を通しての、つなぐ・まぜる活動の変遷	P.9
❖今、ここにいない人へアプローチするための連携イメージと目指す未来	P.10
②非営利活動資金調達モデルづくり（地域発見・ソウイングを起点に）	
❖地域発見「ソウイングプロジェクト」運営体制づくり	P.11
❖2023年度 実施概要（案）	P.12
❖ソウイングプロジェクトのしくみと資金調達について（案）	P.13
3. <u>運営体制（案）</u>	P.14

目指す社会の姿

1. 協力社会をめざした人が緩やかにつながる社会
2. 持続可能な地域のために、頑張りたい人が頑張れる社会
3. 社会課題を自分ごととしてとらえ、参画している人が増えて
いる社会

1. 2023年度（第20期）事業期間と基本方針

事業期間：2023年6月1日～2024年5月31日

●基本方針

1.引き続き、広域での交流（つながる・混ざる活動）＋多世代交流事業継続のあり方を探り、体制案をつくる

→事業①(P.7～10)

2. 昨年度実施した企業社員向けエコツアー企画をベースに、さらに「福祉」を掛け合わせたSDGsプログラムを実施する。『誰一人取り残さない』理念を広く発信し、協賛企業獲得（資金獲得）につなげる →事業②(P.11～13)

資金調達＆環境中間支援機能・役割を伝えるツールが2022年度完成。

1. 2のため活用する

★事業① ②いずれも、持続可能な社会を構築するために、従来の「環境活動」の枠を超えてより幅広い層と連携することを目指す＝今、ここにいない人へのアプローチ

●前年度の基本方針

1. 広域での交流（つながる・混ざる活動）が、当団体専従スタッフがいなくても続けられるあり方を探る

2. 2023年度以降、意味あるネットワークが維持でき、生きた交流を続けるための資金獲得をめざす

3. 2の資金調達のツールとして、また、団体17年の活動成果として、環境中間支援の機能・役割をわかりやすく伝えるツールをつくる



2. 2023年度事業計画（案）

<運営体制 大きな変化の1年>

活動資金大幅減のため、6月より常勤事務局スタッフを置かず、事業を下記2つに絞って実施する。

事業①広域ネットワーク～多世代交流&人材育成～事業（未来創造プログラム）

事業②非営利活動資金調達モデルづくり（地域発見・ソウイングを起点に）

<2024年度の在り方を模索、施策を見出す1年>

大きく運営体制が変わる中で2事業を実施しながら、2024年度にこれら事業を継続するのか、継続する場合、どのような体制で実施し、資金はどうするのか、NPO法人として組織を存続させるのか、それとも法人は解散とし、事業は他組織へ移行するのか等の方針を決め、年度内にそれに従い具体的な施策を見出す。

2024年度へ向けた運営会議の実施＝2024年1月～3月、1～2回

2. 2023年度事業計画（案）

事業①広域ネットワーク～多世代交流&人材育成～事業（未来創造プログラム）

❖2023年度 実施概要（案）

つなぐ・まぜるを意識し、持続可能な社会を創る仲間づくりを継続する

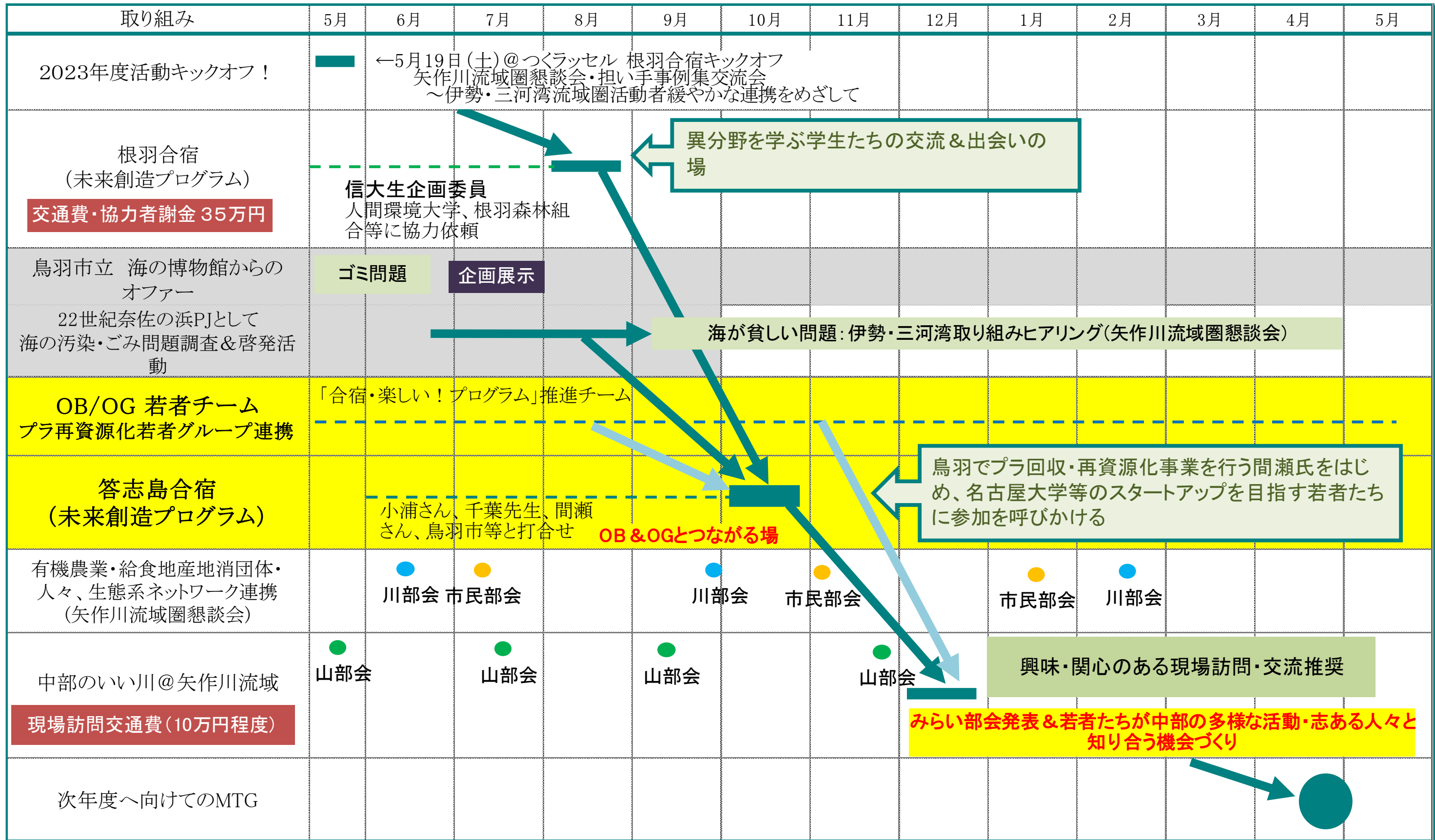
<今年度の目標>

- ①中部流域連携ネットワークサポートを通し、中部5県の環境活動者、行政、研究者、若者が交流し、互いに学びあうワークショップ（矢作川流域開催予定）を実施
- ②①で構築されるつながりを活かしながら「未来創造プログラム」（若者が活動最前線で体験を通して学ぶ）にて林業合宿、答志島合宿をサポートする
- ③矢作川流域圏懇談会への参画を通して、現状においてつながり・交流が少ない下記のような分野へアプローチし連携できるよう働きかける
 - *食の安全（有機農業、給食の有機野菜導入促進活動など）
 - *プラごみ・衣服等マテリアルリサイクル・リユース

⇒①②③スケジュール案は次ページ

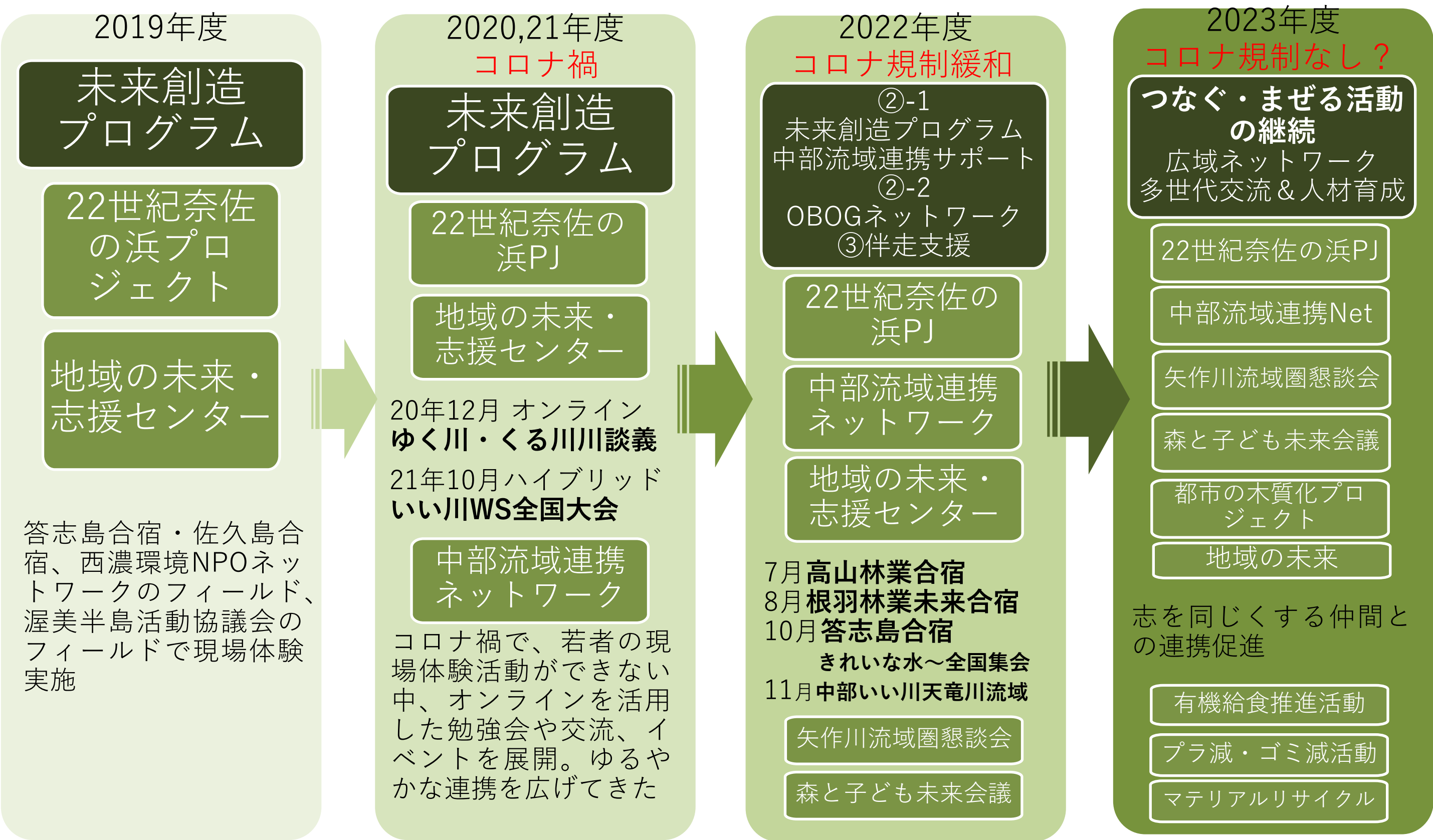
事業①広域ネットワーク～多世代交流&人材育成～事業（未来創造プログラム）

❖年間スケジュール（案）
～情報交流会, 22世紀奈佐の浜PJ, 矢作川流域圏懇談会, 中部流域連携ネットワーク まぜまぜ活動～

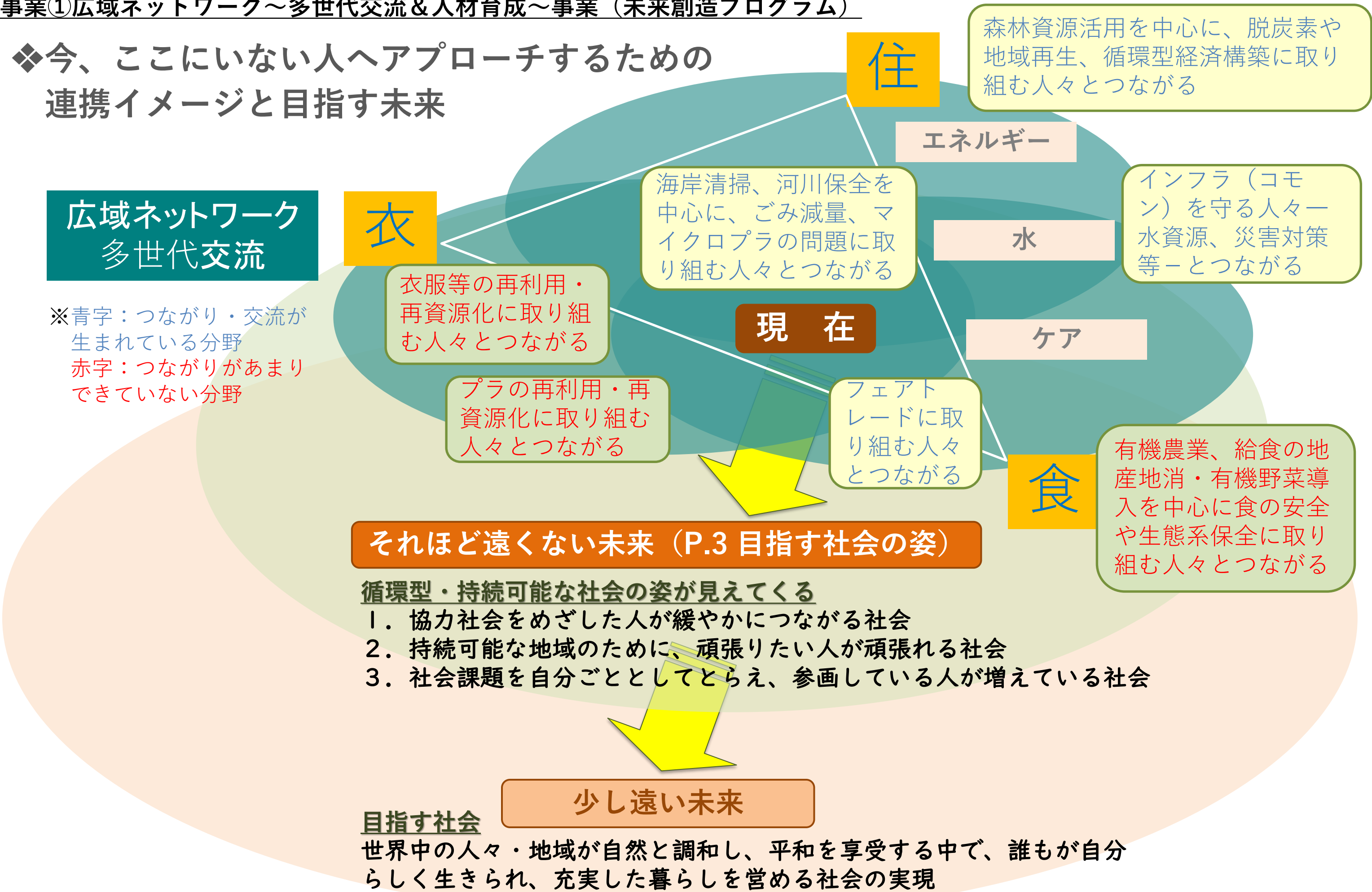


❖「未来創造プログラム」を通しての、つなぐ・まぜる活動の変遷

2015年度より開始したネットワーク構築支援。NPO訪問等のヒアリングを通して明らかになった深刻な担い手不足に対し、2019年より「未来創造プログラム」を開始。若者支援がネットワーク促進に相乗効果をもたらしている。



❖今、ここにいない人へアプローチするための
連携イメージと目指す未来



2. 2023年度事業計画（案）

事業②非営利活動資金調達モデルづくり（地域発見・ソーイングを起点に）

「環境」×「福祉」の視点で人にも焦点を当てたSDGsプログラムを実施する。従来バラバラで取り組まれてきた環境と福祉を縫い合わせる（sew）ように統合していくという意味で「ソーイングプロジェクト」とし、「誰一人取り残さない」社会を目指して課題解決に取り組む企業等の会員を募り、運営資金の獲得を目指す。

◆地域発見「ソーイングプロジェクト」 運営体制づくり

運営体制と予算（案）	
会員	理事・事務局
・ 佐治さん（もりりん'ず）／企画・運営 ・ 上拾石さん（SNAP SHOT）／企業連携促進、資金調達	・ 辻／ 企業窓口（資金調達）、企画サポート ・ ミツ松／会計、運営サポート（当日助っ人） ・ 河合／広報支援 ・ 近藤／積水化学労組の事例等情報共有 ・ 竹内／企業との連携アドバイス ・ 永田／企業との連携アドバイス ・ 岩間、鈴木、渡辺／他地域展開チーム
会員のやりたいことと、次ページの考察を重ね、2022年度に実施したパイロット版（2022年12月、2023年4月実施）をブラッシュアップさせる企画を立案。エコツアー・体験企画の運営は、もりりん'ず 佐治さんを中心に行う。	
会議	予算
・ オンライン運営会議（隔月で実施）／佐治さん・辻理事からの進捗共有と他メンバーへの協力要請等 ・ その他会議で話し合う／7月総会、9月・12月・2月・4月理事会等	・ 40万円 旅費交通費、協力者謝金、ポスター・チラシデザイン代、通信費、ボランティア保険、その他雑費

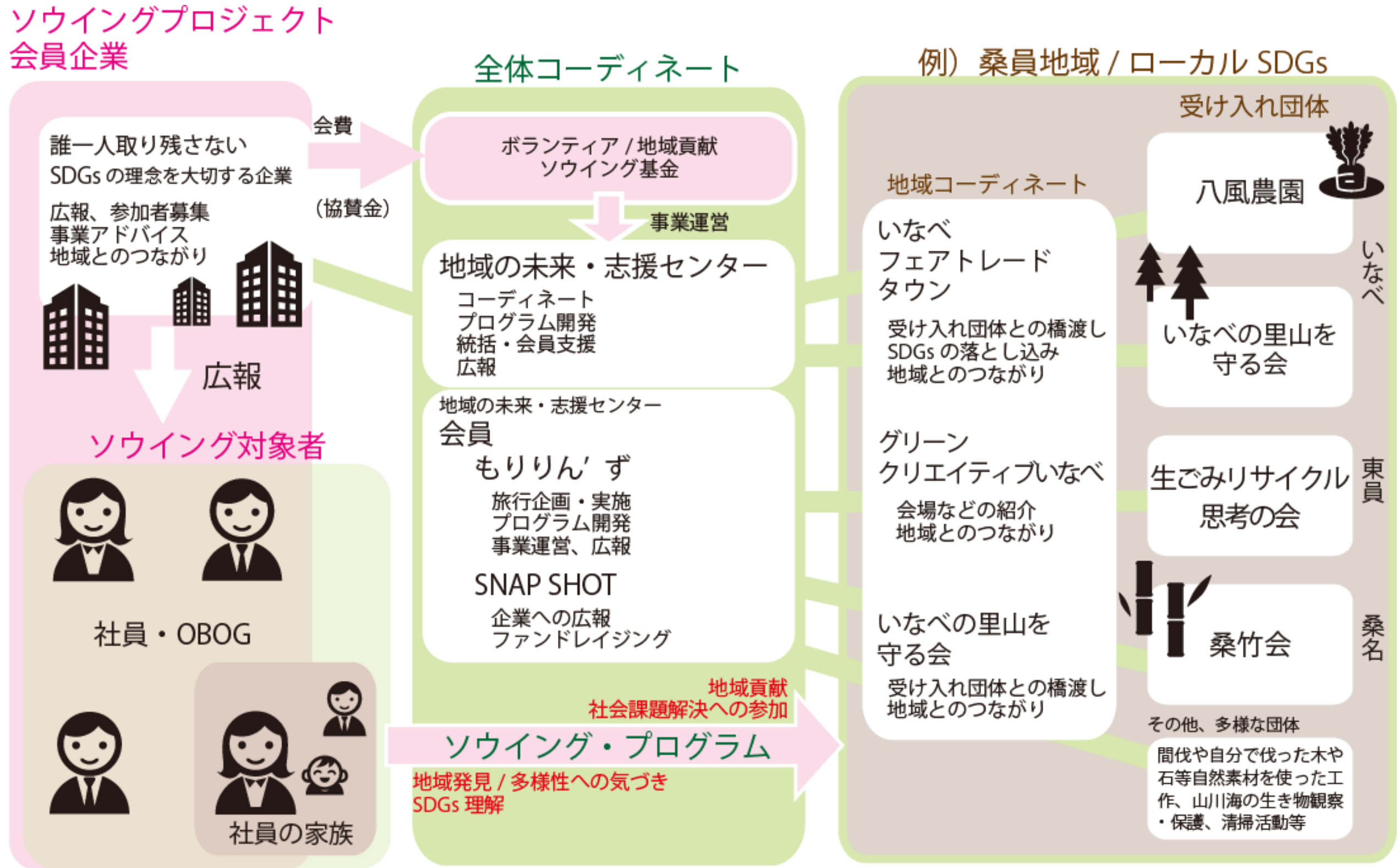
❖2023年度 実施概要（案）

不登校の子どもの保護者向け自然と触れ合うプログラムをつくる

＜今年度の目標＞

- ①ターゲットに対し、自然と触れ合うことや、里山整備等の自然体験を通して視野を広げ、発想を転換する（やり直しができること、枠にとらわれなくて良いことへの気づきなど）ための第一歩となるプログラムを実施する。
- ②そのプログラムを「環境」×「福祉」の視点でとらえ直し、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」の実現には、自然環境保全活動と人権活動を掛け合わせる事が重要な方策のひとつであること、また、そうした活動の価値付けをきちんと行って、広く発信する。
- ③ 「環境」×「福祉」掛け合わせ事業実現のためのコーディネート・伴走役を担う中間支援の重要性を伝えるため、発信力を磨き、協賛企業・団体を募り、資金調達を行う仕組みづくりを目指す。

❖ソウイングプロジェクトのしくみと資金調達について（案）



2023年度は資金調達のための下記のような会員システム構築についても検討する。

会員種別	ゴールド会員(主幹企業)	シルバー会員	ブロンズ会員	資金調達目標 200万円/年
年会費	50万円／年	30万円／年	10万円／年	
目標	1社	3社	6社	

3. 運営体制（案）

1. 役員

【代表理事】	竹内由美子
【副代表理事】	岩間誠 鈴木祐之 渡辺幸久
【理事】	4名
【監事】	1名

2. 事務局

【非常勤職員】	1名
---------	----

3. 総会

第19回通常総会

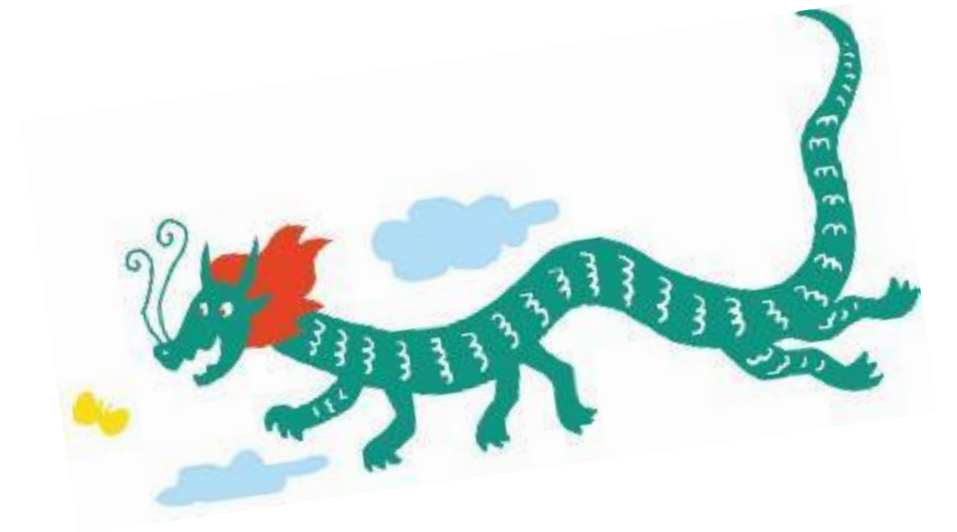
【実施日時】	2023年7月8日(土) 16：00～16：45
【実施場所】	地域の未来・志援センター事務所およびオンライン
【対象者】	当会正会員
【内容】	2022年度事業報告、監査報告、2023年度収支計画 他

4. 理事会

【実施日時】	第1回 2023年6月17日（土） 16：00～18：00 第2回 2023年7月8日(土) 17：00～17：30 第3回 2023年11月（予定） 第4回 2024年4月（予定） ※年4回開催予定
【実施場所】	地域の未来・志援センター事務所およびオンライン

5. 運営会議

2024年度以降の団体の在り方、事業継承等を話し合う運営会議を、2024年1～3月の間に1回、場合によっては2回開催し、第4回理事会までに方針を定める。



地域の未来・志援センター



〒461-0002

愛知県名古屋市東区代官町39-18 日本陶磁器センタービル5階
中部リサイクル運動市民の会内

TEL : 052-936-3213

FAX : 052-982-9089

E-mail : office@c-mirai.org, URL : <http://www.c-mirai.org/>